



モリリちゃん

MORIRI TIN

VAMPIRE Morrigan&Lilith BOOK





みなさんこんにちは「威風堂」です。
12月になってから急激に寒くなりました。
くたばりそうです！
今回はモリガン・リリスの本となりました
そしてまたまたフタナリ本となります。
懐古なキャラですが今でも最高です。
楽しんでね♪

個人的な話ですが、先日体調を崩してしま
い、制作ペースが大幅に遅れております。
威風堂メンバーも40代～50代がメイ
ンですので体力の減退も進みます。
もうちょっと体力づくりをしていきたいです
ね。威風堂(中野ら～めん)

魔王城でおやすみ

半身の蜜逆

文：JUN・中野ら～めん 画：たまつやだ

「あふぅん、んあぁ……すすすい
い……感じちゃいますう、モリガ
ンお姉さま♡」
「ちゅっ、レロッ……ああ、可愛い
わ、リリス……ペロッ、んじゆる
……ちゅばち」
リリスにペニスを突き入れなが
ら、甘くねっとりとしたキスをし、
舌を絡める。
彼女を佳奴隷として扱い、この行
為を愉しみながらも、モリガンは
どこか悩んでいた。
「リリスは、もう一人の自分……一
体化しても当然なのだ、どうして
……」
一つの身体に、二つの心。
今のこの状況に、モリガンはどう
しても違和感を覚えてしまっ
だからこそ、こうして、リリスを分
身として呼び出し、弄んでやっ
た。
「ちゅば、んじゅ……はぁ、はぁ、も
つと……もつと、犯してあげるわ
……リリス」
リリスの新たなマインドレスド
ルを出し、更にモリガン自身を二
人に分身する。
そちらのリリスも、激しく犯し、玩
具として扱っていく。
「ほーら、アナタの大好きなおチ
ンよ。しつかり啜えなさい♡」
「もちるん、そのイヤらしいオマン
コだも、挿れてあげるわね……フ
ツ」
「むぐっ、んじゅおや、はぁはぁ、あ
ん……しゅごい、モリガンお姉さ
ま……あはぁ♡♡」



「いいわよ、リリス……あぁんで
も……………」

性奴ばかり気持ちよくしても、
何故かどこか満たされない。

そう思ったモリガンは、更にリリスの
アストラルヴィジョンを増やし、
その眼前にラタナリのペニスを
突き出してみせた。

「ほーら、アナタたち、これ大好き
きでしょう？」

「ほ、はい……モリガンお姉さま
のオチンチン、好き……大好き
ですら♡」

三人のリリスの視線が、モリガン
が突き出したペニスに注がれて
いた。

「そんなに好きなら、たっぷりし
やぶってちょうだい……ほーら
♡」

「ほ、はい……あむっ、んじゆる
……ペロっ、あむあむ……んは
あ、美味しいですら♡」

「ペロ、ペロ、レロッ……あふぅん、
お姉さま……キヤッ、ひゃうっ
ん！」

モリガンは自らの分身を増やし、
奉仕しているリリスをバツク
で激しく犯し始めた。

（やっぱり、ただ舐めさせるより、
この方が愉しいかも……フワッ
♡）

あくまでリリスは、自分の玩具
でしかない。

モリガンは、主権を握っていた
かった……だが。



「あむ、あふぅ、お姉さま……あ
あ、ものすごいですね、このオチン
チン♡♡♡」
「ビクビクしてますよお、そんなに
気持ちいいですか？ ヌフラッ♡
」
「タマタママも、いっぱいペロペロして
あげますねえ……ああ、すっごく
良い反応♡♡♡」
「思っていた以上に、リリースたちの
責めは激しく、モリガンはいつし
か全身を奮わせていた。
「やっ、んああっ、そんな……ああ
ん、シビれちゃうぅ……くっ、くっ
うん♡♡♡」
「ダメ、本気で感じてる……快感
に抗えない。こんなことって……」
まさかリリースたちに主導権を握
られるなんて、思ってもいなかった。
自らの分身たちに、より激しくリ
リスを責めさせたが、彼女らの舌
と唇がもたらす刺激は強まる一
方であった。
「ああん、お姉さま、すっごく気持ち
いいんですよ♡♡♡」
「そうそう、出して……わたした
ちたいっぱいザーメン、プツかけて
下さい♡♡♡」
「あれあれえ、感じすぎて、返事も
できないんですかあ、んふふっ♡」
「な、なんですってえ……きや
ああっ♡だめ、だめええ、へんにな
るっ♡♡♡」



このままでは、リリスに負けてしまふ……そう感じたモリガンは、必死の反撃を喰じた。
「いっばい、可愛がってあげるわ……めいっばいオナチンチン、ぶち込んで……んぐらうん、んはあちゅ♡♡♡」

「きゃあんっ♡しほいらん、おねえさまあ、そんなにされたら……気持ちよしもきもち♡♡」
「いのよ、もつとらっばい、気持ちよくなつても……ええええ、ちよちよと、だめええ……きゃうらん♡♡♡」

モリガンの別のアストラルヴィジョンに、リリスが勢いよくペニスを突き込み、淫らに腰を振り始めた。

（ああ、ダメ、なんかこの動き、私の弱いところばかり……ああ、おかしくなりそうだな）

それもそのはずだ。リリスも、モリガンの分身……性的ウィークポイントを知つてて当然だった。「負けられない……ひゃああちゅ♡んあちゅ、もつと、もつと……きやうん、くちゅん♡♡」

あまりの快感に、モリガンの淫魔としての力が暴走した……リリスを圧倒しようと、アストラルヴィジョンを増やす。
しかし何故か、リリスも増えてしまふ……ますます、カオス状態になつていく。



モリガンとリリス、数多くの二人の分身と、同じ本数のペニス。それが同じ数のオマンコに突き込まれ、もしくは口いっぱいに唾えられて。今や、その場は混沌のるつぽど化していった。

「もお、しゅごいのおお♥入ってるオチンチンも、別の私の中のオチンチンも、全部イイっ♥狂っちゃうっ♥♥♥」

「ああ♥大好きな、モリガンおねえさま……もっとなチャクチャクしてあげますね♥」

本格的なリリスの性的攻撃を受けながら、モリガンは察し始めていた。

「そんな、こと……はああん♥させない、わ……リリスは、私のモノなんだから……んぐうっ、んああっ、やあああん♥」

「お、おねえさまこそ、わたしのモノですっ♥せつたい、負けませんからあ……んはああ、あんあんっ♥♥♥」

何人もの淫魔が響かせる、淫らかな汁音……いつしかモリガンは、リリスも含めた全ての分身の快楽を、一身に受けていた。



「ああ、もう……どうでもい
い、かも……はああああん♡」
「モリガン、おねえさまあ♡♡
わたし……♡おねえさまと
一緒に……フツ♡♡♡」
別々の存在でありながら、全
てを共有する。
モリガンにとって、リリースは別
個体でありながらも、自らと
同じような存在。
まさに『もう一人の自分』であ
った。
「もっと、一緒に……気持ちよ
くなりましょうか、リリース♡」
「おねえさま……はい、一緒に
いっばい、気持ちよくなり
ましょう♡♡♡」
抱き合い、手を繋ぎ、舌を絡
めながらキスをして。
二人は大きく脚を広げ、ペニ
スを絡めながら、オマンコを
晒す。
「来て、みんな……もっと私と
リリースを、感じさせて……は
あん、乱れさせてえ♡♡♡」
「そう……もっと、もーっとい
っばい、エッチなこと……しよ
っ♡♡♡♡」
淫魔たちの淫らな夜はまだ、
始まったばかりだった……。

(END)

●じゃっじ先生のお絵かきコーナー



じゃっじ先生にコメントを求めたら
卑猥な文字群が送られてきました。
従いましてコメント掲載は
差し控えさせていただきます。
ちんこちんこ。





























2024.12.20
杜若其

VAMPIRE

それでは次回もゲーセンでお会いしましょう



※今回未収録のカットはシナリオ追加+カラー化した電子版にて追加収録予定です。

・モリリちん・

発行日:2024年12月30日(C105)

発行:威風堂

印刷:JC2 TAIYAKI

mail:nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・

本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。
上述の行為を発見・報告時には速やかに法的処理を致します。
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。

威風堂
2024



たまつやだ / じゃっじ / 杜若某 / JUN / 中野ら〜めん